表26. 老後，経済的に子どもに依存する程度 (%)

| | 合計 | 大きい | そうでもない | まったく頼らない | 状況による | わからない | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 女 | 100.0(n=373) | 8.6 | 52.3 | 16.9 | 17.2 | 5.1 | — |
| 男 | 100.0(n=409) | 5.6 | 51.1 | 24.0 | 15.2 | 3.7 | 0.5 |
| 合計 | 100.0(n=782) | 7.0 | 51.7 | 20.6 | 16.1 | 4.3 | 0.3 |

次に，回答者自身が，自分の親へどのように援助をすると考えているかをたずねた．

まず，結婚後の親との同居について「積極的」「消極的」「状況による」「わからない」の4択で回答を求めた．その結果，「消極的」46.4％と「状況による」43.5％という回答が，同程度であった．結果を表27に示した．

表27. 結婚後の親との同居 (%)

| | 合計 | 積極的 | 消極的 | 状況による | わからない |
|---|---|---|---|---|---|
| 女 | 100.0(n=373) | 8.0 | 50.1 | 39.9 | 1.9 |
| 男 | 100.0(n=409) | 7.1 | 43.0 | 46.7 | 3.2 |
| 合計 | 100.0(n=782) | 7.5 | 46.4 | 43.5 | 2.6 |

回答者本人が，働くようになったときに，親へ収入の一部を渡すことについての考えをたずね，「積極的」「消極的」「状況による」「わからない」の4択で回答を求めた．その結果，「積極的」という回答が，47.1％ともっとも多く，「状況による」が40.7％と次に多いという結果であった．結果を表28に示した．

表28. 収入の一部を親へ渡すこと (%)

| | 合計 | 積極的 | 消極的 | 状況による | わからない |
|---|---|---|---|---|---|
| 女 | 100.0(n=373) | 51.5 | 8.0 | 37.5 | 2.9 |
| 男 | 100.0(n=409) | 43.0 | 10.5 | 43.5 | 2.9 |
| 合計 | 100.0(n=782) | 47.1 | 9.3 | 40.7 | 2.9 |

回答者の親が年をとったとき，親を扶養することについての考えをたずね，「積極的」「消極的」「状況による」「わからない」の4択で回答を求めた．その結果，「積極的」という回答が，47.7％ともっとも多く，「状況による」が42.2％と次に多いという結果であった．結果を表29に示した．

表29. 年をとった両親の扶養 (%)

| | 合計 | 積極的 | 消極的 | 状況による | わからない |
|---|---|---|---|---|---|
| 女 | 100.0(n=373) | 49.1 | 6.7 | 42.9 | 1.3 |
| 男 | 100.0(n=409) | 46.5 | 9.8 | 41.6 | 2.2 |
| 合計 | 100.0(n=782) | 47.7 | 8.3 | 42.2 | 1.8 |

最後に，家事や家業の手伝いをすることについての考え方をたずね，「積極的」「消極的」「状況による」「わからない」の4択で回答を求めた．その結果，「積極的」という回答が，51.9％ともっとも多く，「状況による」が35.9％と次に多いという結果であった．結果を表30に示した．

表30．家事や家業の手伝い (%)

| | 合計 | 積極的 | 消極的 | 状況による | わからない |
|---|---|---|---|---|---|
| 女 | 100.0(n=373) | 49.1 | 9.7 | 38.6 | 2.7 |
| 男 | 100.0(n=409) | 54.5 | 9.8 | 33.5 | 2.2 |
| 合計 | 100.0(n=782) | 51.9 | 9.7 | 35.9 | 2.4 |

3－２－１２．育児休業制度

育児休業制度についてどの程度知っているかについてたずねた．

まず，「育児休業制度」について聞いたことがあるかどうかをたずね，結果を表31にまとめた．92.8％の人が聞いたことがあり，制度自体の認知度は大変高いことがわかった．

表31．育児休業制度について聞いたことがあるか (%)

| | 合計 | 聞いたことがある | 聞いたことはない |
|---|---|---|---|
| 女 | 100.0(n=373) | 96.8 | 3.2 |
| 男 | 100.0(n=409) | 89.2 | 10.8 |
| 合計 | 100.0(n=782) | 92.8 | 7.2 |

次に，育児休業制度の詳細についてたずねた．勤務先に育児休業制度がない場合も，申し出をすれば育児休業ができることを知っている人は25.7％，知らない人は74.2％であった（表32）．また，妻が専業主婦や産休中であっても，男性も育児休業制度を利用できることを知っている人は，38.4％，知らない人は61.5％であった（表33）．さらに，育児休業制度には，時間外労働の制限・深夜業の制限・勤務時間の短縮措置があることを知っている人は31.3％，知らない人は68.7％であった（表34）．

制度の存在についての認知度は高くても，内容についてはあまり知られていないことがあきらかになった．

表32．勤務先に制度がない場合でも，申し出れば休業できることを知っているか (%)

| | 合計 | 知っている | 知らない | 無回答 |
|---|---|---|---|---|
| 女 | 100.0(n=373) | 24.7 | 75.1 | 0.3 |
| 男 | 100.0(n=409) | 26.7 | 73.3 | － |
| 合計 | 100.0(n=782) | 25.7 | 74.2 | 0.1 |

表33. 妻が専業主婦／産休中の場合でも，男性も8週間の育児休業ができることを知っているか(%)

| | 合計 | 知っている | 知らない | 無回答 |
|---|---|---|---|---|
| 女 | 100.0(n=373) | 45.3 | 54.4 | 0.3 |
| 男 | 100.0(n=409) | 32.0 | 68.0 | — |
| 合計 | 100.0(n=782) | 38.4 | 61.5 | 0.1 |

表34. 育児休業制度の時間外労働制限，深夜業制限，勤務時間短縮について知っているか (%)

| | 合計 | 知っている | 知らない |
|---|---|---|---|
| 女 | 100.0(n=373) | 39.1 | 60.9 |
| 男 | 100.0(n=409) | 24.2 | 75.8 |
| 合計 | 100.0(n=782) | 31.3 | 68.7 |

次に，将来，育児休業制度を利用したいと考えるかについて，「はい」「いいえ」で回答を求めた．

女性では90％以上の人が制度を利用したいと考えており，働きながら育児をする希望が大きいことがわかった．また男性も，76.5％の人が利用したいと回答しており，実際に育児への参加意欲が高いことが示された（表35）．

表35. 育児休業制度の利用希望 (%)

| | 合計 | はい | いいえ |
|---|---|---|---|
| 女 | 100.0(n=373) | 90.6 | 9.4 |
| 男 | 100.0(n=409) | 76.5 | 23.5 |
| 合計 | 100.0(n=782) | 83.2 | 16.8 |

育児休業制度を利用したいと回答した人のうち，どの制度を利用したいかについてたずねた（表36－表39）．特に時間外労働の制限措置と，深夜業の制限措置については，男性も利用したいと回答した人が90％を超えるという結果であった．しかし，育児休業や労働時間短縮については，利用したくないと回答した男性が，それぞれ25.2％と23％であり，制度を利用するには抵抗があることが示された．

表36. 育児休業の利用 (%)

| | 合計 | 利用したい | 利用したくない | 無回答 |
|---|---|---|---|---|
| 女 | 100.0(n=338) | 98.5 | 1.5 | — |
| 男 | 100.0(n=313) | 74.1 | 25.2 | 0.6 |
| 合計 | 100.0(n=651) | 86.8 | 12.9 | 0.3 |

表37. 時間外労働制限措置の利用 (%)

| | 合計 | 利用したい | 利用したくない | 無回答 |
|---|---|---|---|---|
| 女 | 100.0(n=338) | 94.4 | 5.3 | 0.3 |
| 男 | 100.0(n=313) | 90.4 | 9.3 | 0.3 |
| 合計 | 100.0(n=651) | 92.5 | 7.2 | 0.3 |

表38. 深夜業制限措置の利用 (%)

| | 合計 | 利用したい | 利用したくない | 無回答 |
|---|---|---|---|---|
| 女 | 100.0(n=338) | 96.7 | 2.7 | 0.6 |
| 男 | 100.0(n=313) | 90.7 | 8.9 | 0.3 |
| 合計 | 100.0(n=651) | 93.9 | 5.7 | 0.5 |

表39. 時間短縮措置の利用 (%)

| | 合計 | 利用したい | 利用したくない | 無回答 |
|---|---|---|---|---|
| 女 | 100.0(n=338) | 88.8 | 10.9 | 0.3 |
| 男 | 100.0(n=313) | 76.4 | 23.0 | 0.6 |
| 合計 | 100.0(n=651) | 82.8 | 16.7 | 0.5 |

一方，育児休業制度は利用したくないと回答した人に，その理由をたずねた．結果を表40に示した．

女性では「子どもを持つつもりがない」「復帰後仕事についていけるか不安」「復帰後の処遇に不安がある」などの回答が多く，男性は「配偶者が子育てに専念するだろう」「仕事が面白いだろうから」という理由が多かった．男性の育児休業制度を利用しない理由は，育児を主体的にしない理由と重なるものであった．

表40. 育児休業制度を利用しない理由 (%)

| | 合計 | 子どもを持つつもりがないから | 配偶者が子育てに専念するだろうから | 子どもの保育についての手配ができるだろうから | 休むと復帰後仕事についていけるか不安だから | 仕事が面白いだろうから | 同僚に迷惑をかけたくないから | 復帰後の処遇に不安があるから | 休業すると経済的に苦しいだろうから | 職場に育児休業を取得しづらい雰囲気があるだろうから | その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 女 | 100.0(n=35) | 28.6 | − | 2.9 | 17.1 | 2.9 | − | 14.3 | 8.6 | 11.4 | 8.6 | 5.7 |
| 男 | 100.0(n=96) | 13.5 | 16.7 | 1.0 | 10.4 | 13.5 | 14.6 | 9.4 | 10.4 | 6.3 | 1.0 | 3.1 |
| 合計 | 100.0(n=131) | 17.6 | 12.2 | 1.5 | 12.2 | 10.7 | 10.7 | 10.7 | 9.9 | 7.6 | 3.1 | 3.8 |

仮に，職場で男女とも50％以上の人が育児休業制度を利用する場合，回答者本人も利用するかをたずね，「はい」「いいえ」で回答を求めた．その結果を表41に示した．利用すると回答した人は90.7％にのぼり，周囲の人が当たり前に育児休業をする環境であれば，積極的に利用するつもりのあることがあきらかになった．

表41. 職場で50%以上の人が利用している場合，利用するか　(%)

| | 合計 | はい | いいえ | 無回答 |
|---|---|---|---|---|
| 女 | 100.0(n=373) | 94.9 | 5.1 | — |
| 男 | 100.0(n=409) | 86.8 | 13.0 | 0.2 |
| 合計 | 100.0(n=782) | 90.7 | 9.2 | 0.1 |

出産・育児のしやすさを考慮に入れて就職活動を行うか（行ったか）についてたずねた結果，女性では40.2%の人が考慮に入れると回答しているのに比べ，男性では16.4%の人のみが考慮に入れると回答した．

表42. 就職活動の際，出産・育児のしやすさを考慮に入れたか　(%)

| | 合計 | はい | いいえ |
|---|---|---|---|
| 女 | 100.0(n=373) | 40.2 | 59.8 |
| 男 | 100.0(n=409) | 16.4 | 83.6 |
| 合計 | 100.0(n=782) | 27.7 | 72.3 |

### 3－２－１３．少子化関連の政策への評価

少子化対策として考えられるいくつかの施策について，どの程度役に立つとかんがえるかについて，「とても役に立つ」「どちらかといえば役に立つ」「どちらかといえば役にたたない」「まったく役に立たない」の4件法で回答を求めた．各施策ごとに，結果をまとめ，表43から表54に示した．

どの政策とも，高い評価がされていたが，男性対象の施策に関しては，比較的評価が低い傾向にあった．また，育児休業中の所得保障については，「とても役に立つ」との回答が79.3％と高く，所得保障を行いながら，他の対策を立てることが求められていることがわかった．

表43. 女性が出産後も育児をしながら働き続けられる職場作りに関する政策　(%)

| | 合計 | とても役に立つ | どちらかといえば役に立つ | どちらかといえば役に立たない | まったく役に立たない | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 女 | 100.0(n=373) | 79.4 | 18.5 | 1.6 | 0.3 | 0.3 |
| 男 | 100.0(n=409) | 68.5 | 27.1 | 3.2 | 1.2 | — |
| 合計 | 100.0(n=782) | 73.7 | 23.0 | 2.4 | 0.8 | 0.1 |

表44. 女性の育児休業制度(1年以内の休業)を促進させる政策　(%)

| | 合計 | とても役に立つ | どちらかといえば役に立つ | どちらかといえば役に立たない | まったく役に立たない | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 女 | 100.0(n=373) | 72.4 | 26.3 | 0.5 | 0.5 | 0.3 |
| 男 | 100.0(n=409) | 64.8 | 29.8 | 4.6 | 0.7 | — |
| 合計 | 100.0(n=782) | 68.4 | 28.1 | 2.7 | 0.6 | 0.1 |

表45. 男性の育児休業制度(1年以内の休業)を促進させる政策 (%)

| | 合計 | とても役に立つ | どちらかといえば役に立つ | どちらかといえば役に立たない | まったく役に立たない |
|---|---|---|---|---|---|
| 女 | 100.0(n=373) | 59.0 | 31.9 | 7.5 | 1.6 |
| 男 | 100.0(n=409) | 49.6 | 37.7 | 9.8 | 2.9 |
| 合計 | 100.0(n=782) | 54.1 | 34.9 | 8.7 | 2.3 |

表46. 子育て期間における女性の勤務時間の縮減に関する政策 (%)

| | 合計 | とても役に立つ | どちらかといえば役に立つ | どちらかといえば役に立たない | まったく役に立たない |
|---|---|---|---|---|---|
| 女 | 100.0(n=373) | 66.5 | 29.5 | 3.8 | 0.3 |
| 男 | 100.0(n=409) | 59.9 | 35.0 | 3.9 | 1.2 |
| 合計 | 100.0(n=782) | 63.0 | 32.4 | 3.8 | 0.8 |

表47. 子育て期間における男性の勤務時間の縮減に関する政策 (%)

| | 合計 | とても役に立つ | どちらかといえば役に立つ | どちらかといえば役に立たない | まったく役に立たない | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 女 | 100.0(n=373) | 51.5 | 35.7 | 11.5 | 1.3 | — |
| 男 | 100.0(n=409) | 42.5 | 40.8 | 13.7 | 2.4 | 0.5 |
| 合計 | 100.0(n=782) | 46.8 | 38.4 | 12.7 | 1.9 | 0.3 |

表48. 子育てをしている女性への企業内の協力体制の整備 (%)

| | 合計 | とても役に立つ | どちらかといえば役に立つ | どちらかといえば役に立たない | まったく役に立たない |
|---|---|---|---|---|---|
| 女 | 100.0(n=373) | 77.2 | 20.9 | 1.3 | 0.5 |
| 男 | 100.0(n=409) | 68.2 | 25.4 | 5.1 | 1.2 |
| 合計 | 100.0(n=782) | 72.5 | 23.3 | 3.3 | 0.9 |

表49. 子育てをしている男性への企業内の協力体制の整備 (%)

| | 合計 | とても役に立つ | どちらかといえば役に立つ | どちらかといえば役に立たない | まったく役に立たない | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 女 | 100.0(n=373) | 60.1 | 30.6 | 7.2 | 2.1 | — |
| 男 | 100.0(n=409) | 50.9 | 37.2 | 8.8 | 2.9 | 0.2 |
| 合計 | 100.0(n=782) | 55.2 | 34.0 | 8.1 | 2.6 | 0.1 |

表50. 妊娠・出産や育児休業制度取得を理由とする不利益取り扱いや嫌がらせの防止に関する政策 (%)

| | 合計 | とても役に立つ | どちらかといえば役に立つ | どちらかといえば役に立たない | まったく役に立たない |
|---|---|---|---|---|---|
| 女 | 100.0(n=373) | 76.1 | 19.6 | 4.0 | 0.3 |
| 男 | 100.0(n=409) | 65.5 | 26.2 | 7.3 | 1.0 |
| 合計 | 100.0(n=782) | 70.6 | 23.0 | 5.8 | 0.6 |

表51. 育児休業中の所得の保障 (%)

| | 合計 | とても役に立つ | どちらかといえば役に立つ | どちらかといえば役に立たない | まったく役に立たない | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 女 | 100.0(n=373) | 84.5 | 12.9 | 2.4 | 0.3 | — |
| 男 | 100.0(n=409) | 74.6 | 20.0 | 3.9 | 1.2 | 0.2 |
| 合計 | 100.0(n=782) | 79.3 | 16.6 | 3.2 | 0.8 | 0.1 |

表52. 出産・育児による休業・退職後の職場復帰あるいは再雇用の支援 (%)

| | 合計 | とても役に立つ | どちらかといえば役に立つ | どちらかといえば役に立たない | まったく役に立たない | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 女 | 100.0(n=373) | 82.3 | 15.5 | 1.6 | 0.3 | 0.3 |
| 男 | 100.0(n=409) | 71.9 | 22.7 | 4.4 | 1.0 | — |
| 合計 | 100.0(n=782) | 76.9 | 19.3 | 3.1 | 0.6 | 0.1 |

表53. ライフスタイルに応じた多様な働き方を支援する政策 (%)

| | 合計 | とても役に立つ | どちらかといえば役に立つ | どちらかといえば役に立たない | まったく役に立たない |
|---|---|---|---|---|---|
| 女 | 100.0(n=373) | 68.4 | 26.8 | 4.6 | 0.3 |
| 男 | 100.0(n=409) | 57.0 | 34.0 | 8.1 | 1.0 |
| 合計 | 100.0(n=782) | 62.4 | 30.6 | 6.4 | 0.6 |

表54. 保育サービスの充実 (%)

| | 合計 | とても役に立つ | どちらかといえば役に立つ | どちらかといえば役に立たない | まったく役に立たない |
|---|---|---|---|---|---|
| 女 | 100.0(n=373) | 79.4 | 18.2 | 2.1 | 0.3 |
| 男 | 100.0(n=409) | 66.5 | 26.2 | 6.4 | 1.0 |
| 合計 | 100.0(n=782) | 72.6 | 22.4 | 4.3 | 0.6 |

## ３２－１４．自由記述欄(子どもに対する感想など)

「身の回りの人が子どもを持つ理由」と，調査の最後に聞いた「子どもに対する感想，意見」の設問における自由解答について，データマイニング分析を行った．自由回答中に出てくる名詞を対象にキーワードを調べたところ，448語が抽出された．キーワードの頻度を集計したところ頻度の多い上位10語は，全1978語中「子ども」「子供」が合計で339語ともっとも多く，以下「自分」167語，「かわいい」97語，「人」64語，「家庭」63語，「幸せ」43語，「家族」39語，「子育て」36語，「理由」33語，「人生」33語，「愛情」30語，「自然」30語であった．

「子どもに対する感想，意見」については，下記に示した．

＜子どもを持つことに関する意見＞

・“親”という立場になる事はその人にとって人生を豊かにしまた一人の人間としてより大きなものになるためにも非常に大切なことだと思う．しかし計画もなくむやみに子供を作ることはあまりいいとは思わない．間違った人生設計をすることはのちのちの子供にとってもよくないし親にとってもよくない．親にとっても子にとっても充実した人生を送るためにもきちんと考えて子供を産むべきである．(20歳・男)
・「子ども」という新しい生命を誕生させるということは非常に慎重にそして真剣に考えていかなければならない．私のエゴで生まれるということもあり得る．非常に難しい問題である．(24歳・男)
・21歳の現在の私は子どもを持ちたいとまだ思えない．自分のやりたいことを優先させたい気持ちが大きい．(21歳・女)
・かわいい娘を産みたい．子どもより奥さんを大事にして生きたい．(19歳・男)
・この調査について子どもを持つ理由は人それぞれあると思うし子どもに望むものもいろいろあると思うが子供がいるから自分たちが負担になると考えるより子供がいるからより楽しいと思える生活を将来送りたいと思った．(20歳・女)
・まだ子供を持つことは想像ができませんが少しずつ色々と考えていきたいと思います．調査頑張ってください．(20歳・女)
・もっとてんしんらんまんに育ってほしい．(19歳・女)
・一族を残したいから宗教上子どもが必要だからという質問が何度かあったのがとても目に付きました．私の家庭は特にどの宗教にも所属しておらずクリ

スマスも祝うしお正月には神社に行く日本の典型的家庭です．一族などの言葉もまったく使うことのないのでそのような義務感で子どもを持ちたいとはまったく思いません．しかし四人兄弟の中で今まで生きてきて父と母をずっと見てきてこのような家庭を自分も築きたいとはとても思います．しかし結婚しても職についていたいと思うので妊娠・出産後にそのことについての不安は多々あります．(20歳・女)

・改めて子供が欲しいと思いました．(22歳・男)

・海外一人旅をしていたので家族を持たない人子どものいない人と接することが多かった．そのせいか子どもがいなくてもまた別の人生があり喜び楽しみもある．子どもがいればその人生はないと思う．(22歳・男)

・学生で子どもを持つことがあまり歓迎されない社会なのが悲しいです．学生には経済力がないから仕方ないのかもしれませんが周りの子でも「学生だからすごく産みたいけど堕ろした」という子が多いです．何か改善できることはないかなあと最近思います．(19歳・女)

・経済云々よりも今の社会状態を見る限り自分の子どもをしっかりと育てられるか不安です．子育てには経済的負担と共に大きな責任が伴います．それに耐えられるかどうか自信もありません．いないよりマシかもしれませんがきちんとしつけもできないで産んだり自分の「おもちゃ」のようにするくらいなら産まないほうがいいのではとも思っています．(19歳・男)

・今の日本では安心して子どもを育てられないと思うので欲しくても迷います．特に仕事への影響が心配です．(22歳・女)

・今はまだ全く結婚とか子供のことを考えていない状態なのですが就職活動のときに育児休暇制度が整っているかなどを少し気にしてみようかなと思いました．(20歳・女)

・最近何も考えずに子供を作るものがいるがそういったものは自分のことしか考えていないと思う．第一に考えるとことは子供の幸せであって幸せにできないのであったら作るべきではない．幸せにできる自信がついてから作るべき．考え方が古いとか硬いとかいわれるかもしれないがあたりまえのことではないだろうか・・・(20歳・男)

・子どもがほしい(21歳・男)

・子どもが欲しいから作るといったことができないくらい現在不景気である．少子化が促進される．学費が高い．政府はどう対策しているのか気になる．昔に比べて子どもを欲しがらない女性が増えた．それは尊重されるべきである．仕事と子育ての両立は可能であるのか．母親に育てられた子どもと保育園で育てられた子どもの相違点はあるのかあるな何か知りたい．ないなら保育園に預けて仕事します．(20歳・女)

・子どもはほしいが費用もかかるし仕事でのキャリアアップが阻まれる現実があるので実際に育てやすい環境を整えてほしい．保育所の入所待機幼児をゼロにするだけで問題は解決されるわけがない．社会の意識を変えていくよう仕掛ける必要があると思う．(22歳・女)
・子どもはほしいけど私も１番の悩みの理由は経済的または労働（育児休暇職場復帰など）です．それが緩和されれば2人子供がほしいです．でも問題がよくならなかったら1人ぐらいしかほしくないです．1人をしっかりと育てたいから．(19歳・女)
・子どもはほしいとは思いますが現実では仕事(自分のキャリア)保育園経済的な負担などを考えると難しいと思います．(28歳・女)
・子どもをもつかどうかはその時点での自分の経済的状況等をしっかり把握していなければ失敗すると思う．(21歳・男)
・子どもを育てるのは親(大人)であるので子育てを充実したものにするには親の環境を整えることが最重要だと思われる．(19歳・男)
・子どもを育てるのは大変だと思うので現実的に考えて子どもを持つようにすべきだと思う．(21歳・女)
・子どもを持つか否かは全くもってその人の価値観 すなわち何に重きをおいているかによると考える．(29歳・男)
・子どもを持つことで夫婦の愛の絆が強くなる．(19歳・男)
・子どもを持つということは配偶者や子どもに対して責任を伴うので慎重に行うべきだと思った．(20歳・男)
・子どもを持つという事を少しながら現実的に考えさせてもらえて勉強になりました．(20歳・男)
・子どもを持つのはまだまだ先だと考えているため社会におけるいろいろな政策についてほとんど知識がないのだと改めて認識しました．これからはこのようなことに少しずつ興味を持っていこうと思いました．(19歳・女)
・子どもを授かるということはすばらしいことだと思う．将来自分の親のようになりたいと思う(20歳・女)
・子を持つこと育児は個人の自由だが子を持つからにはそれなりの責任感を持ってその仕事を全うすべきだとは思う．(20歳・男)
・子育てと仕事の両立はできなさそうなので子供を産むことはないだろうと思っているのですがそれよりも自分が母親になった時に問題なのは父親になるだろう相手の気持ちの変化であると考えています．(19歳・女)
・子供がいる生活はきっと楽しいだろうからきっと子供がいる生活を望むと思う．(20歳・男)
・子供が好きだからという理由だけでは子供は育てられないと思う．現在子育

ての経験のある人はどのような理由で生んでどこからの知識で育てのかなどが知りたい．子供を生んで育てるということはどのようなことなのかまだいまいちよく分からず簡単には考えられない．(22歳・女)

・子供は何かの為に産むものではないと思う．(21歳・男)

・子供を持つ持たないは各個人や各夫婦の洗濯ではあるが子供を持つことによって生活（家庭生活・教育・仕事など）に支障が起きることはあってはならないと思う．というのも子供は親の財産であると同時に将来の私たちの生活を支えていくまた社会の発展に貢献する財産だからである．(23歳・男)

・私が子どもを欲しいと思う理由　１．子どもを残したい（自分の生きてきた意味を再認識したい）　２．配偶者との子供が欲しい　３．老後のため　私が子どもに期待すること　・自分のできなかったことをかわりにやってもらう　ex）自分よりも高学歴スポーツにおいて自分よりも上のレベルまで行って欲しい　結局は自分の為か・・・(21歳・男)

・私は四人姉弟で育ったので子供のいない生活や一人っ子は考えられない．将来は二人以上の子どもがほしいと思う．(20歳・女)

・私は子供がほしいと思っている．その理由はとても抽象的だが私が生きた証になるからだと思っている．別に「子孫が・・・」とか「一族が・・・」とかではない（つもり）だけど自分みたいな歴史に名を残すようなことはおそらくできないであろう存在が生きていたのだと未来へ向かって言うためには自分の遺伝子を残すことが一番手っ取り早いかなとおもった．誰かのためでなく自分のために子供を産まなければきっと子供をずっと愛していくことはできないように思う．(20歳・女)

・私は子供を持つことに消極的です．経済的理由はもちろんですが“子供を持ちもし失ったときの悲しさ”をこのご時勢考えてしまいます．多発する若者の自殺や憤りを感じざるを得ない卑劣な少年・少女の殺人の数々・・・．テレビなどで遺族の方々の悲痛な叫びを聞いていると胸が痛みます．(20歳・男)

・私は少し前まで結婚も子供もしないしいらないと考えてました．ですが子供好きな(子育てに前向きな)友人と話している内に自分も子どもを産んで育てたいと思うようになりました．今ではできる限り(お金の心配がなければ)たくさんの子供が欲しいと思っています．私は1人っ子なので"きょうだい"というものがどういうものか分かりませんがきょうだいがいたらきっと楽しいだろうなと思います．(感想になってないかもです…すみません)(23歳・女)

・自分が一人っ子だったので大家族というものに憧れがあり子供はできるだけ欲しいと思っているが経済的な事を考えると難しいとつくづく実感させられた．できるだけお金を稼がなくては・・・(19歳・女)

・自分が子どもを持つことなんて考えてみたことがあまりなかったので調査に

答えていておもしろかった．今はとても子どもを持てるような経済状況じゃないが，将来働き出して子どもに不便をかけずに育てられるぐらいの収入を得られるようになれば，子どもを持ちたいなと思う．自分の子どもができたら，かわいくてたまらないだろう．(20歳・男)

・自分の子供がほしいという気持ちにそれほど重要な理由（経済的なことなど）は関係ないと思う．(20歳・男)
・将来子どもを産むとしたらたぶん意図的には子どもをつくろうとはしないと思います．産んでもせいぜいひとりかな・・・．(21歳・女)
・将来子供はほしいが仕事に支障が出るのは避けたい．(21歳・女)
・早く子供が欲しくなった．(22歳・女)
・多く子どもを持つには経済力が必要であると考えます．(31歳・男)
・大学に入った当初のころは子育てはおろか結婚もさほどしたいとは思っていませんでした．今は結婚はしたいと思うようになりました．特に最近立て続けに周りの同じ年令の人が結婚したのに強く影響は受けていると思います．これから先自分の周りが子どもを持つようになってくると自分も子どもが欲しいとより強く考えるようになるだろうと感じます．私が「大人」になってから子供に多く接したのは公文でアルバイトをしていたとき(大学１，２年)なのですがその時「子どもってこういうものだったんだ」という新鮮な感覚を味わいました．自分が子ども(23歳・女)
・誰でも子どもはほしいと思います．でもやっぱり経済的な問題が解決しなければ難しいと思います．(20歳・男)
・普段子供を持つことについてはあまり真剣に考えたことがなかったので深く考えるには良い機会でした．私は子供が欲しい派なんですがその理由が小学校の授業参観の時親父が若くてカッコ良ければ・・・と思っていたこと（笑）あとは人生経験できることは経験しないと損だと思うからというあいまいなモンでぜんぜん真剣じゃないなと実感しました．現実に目を向けることも必要だと思いました．自分にはまだまだ子供を持つのは先になると思いますが・・・．(19歳・男)

＜子どもに関する意見＞

・こども is LOVE(19歳・男)
・こどもはかわいい．(22歳・男)
・今後生まれてくる子どもたちへ．善悪判断のできる子どもになってほしい．(21歳・男)
・最近の子どもにはいわゆる子供っぽさがない．大人の完全なミニチュアとしての子供が目立つ．(21歳・女)

・最近の子供は元気がない．(21歳・男)
・最近やけに大人びた子供が多い気がします．幼いのにおちついているというか人生悟ってしまっているというか・・・それに伴い子どもの心はますます見えにくくなって私達まわりの大人にも「最近の子供は何をするかわからない」という悪いイメージがついてしまっている気がします．女性も働くのが当たり前になった現代であるから子供とじっくり話す機会がへるのは仕方ないのかもしれないけどでもこのままじゃ子供はどんどん壊れていくと思います．女性が働きながらかつ子供にもじっくり目を向けられる社会になったらいいのにと思います．(21歳・女)
・最近よく耳にする事件は何らかの形で子供が関わっているものが多い気がする．3才の子どもをダンボールの中に入れて3週間放棄し餓死させた事件小中学生が出会い系サイトを利用し犯罪にまきこまれるなど．社会や大人が守るべき子供が守られていないような気がする．子供が犯罪をおこすような人間にならないためにも子供が犠牲にならないためにも幼少の頃に親がしっかりと愛し教育することが非常に大切である．そのような環境を整えるためには国の様々な政策援助が必要である．(22歳・女)
・子どもによる．(20歳・男)
・子どもに関する意識は自分が育ってきた環境が影響していると思った．私は下の兄弟がいないので小さな子どもがよくわからない存在だし自分が３人兄弟なので自分の子どもも１人っ子だったら淋しいだろうなと思う．(21歳・女)
・子どもはかわいいし私も早くほしいと思うが不安も大きい．最近私の周りにはできちゃった結婚しかも故意的な結婚をする人が多い．しかしそんな簡単なものではないはずで人一人の命がかかった問題なので子どもを作るなとはいわないがもう少し慎重になったほうがいいと思う．(20歳・女)
・子どもはすごいかわいくて好き□　でんしゃの中の子供とかめっちゃしゃべりかけたい．　自分でも子どもに沢山かこまれて生活したい．　けど出産しても仕事は絶対つづけたいで女性にも優しい職場がイイナァ…と思う．(19歳・女)
・子どもはときに経済的負担になったりストレスになったりもするものであるが子どもを持つことにより親は生きがいをみつけることができるし成長することができると思う．(20歳・女)
・子どもは貴重．(21歳・女)
・子どもは純粋でキレイな瞳をしています．子どもたちの未来が幸せなものになるよう私たちは努力していかなければならないと思います．(19歳・女)
・子どもは女の子がいいです．名前は「彩名」がいいです．(19歳・男)
・子どもは大好きですが子育ては大変で色々問題が起きると思います．（うち

の状況から）(22歳・女)
・子どもは大切です(21歳・男)
・子どもを見ているのはとても面白いですがその一方で育ててゆく責任なども多大なものがあると思います．自分にとってはそれは未知数なので子を持つのは少々恐ろしくもあります．(23歳・男)
・子供のかわいさは武器だ(19歳・男)
・子供はかわいいと思うし自分も持ちたいと思うがその後の困難についても考えていかなければならない！(19歳・男)
・子供は親の背中を見て育つので親が社会の規範としての行動をとらないと子供も同じようになる確率が高いと思う．つまり子供の教育の本質は親の教育だと思う．(21歳・男)
・私のイメージではかわいいが金がかかるような感じである．もう少し政府から資金の援助があればいいと思う．(20歳・男)
・自分は子供が好きです(22歳・男)
・赤ちゃんは天使☆(19歳・女)
・友達に子供がいるが子供というのは本当にすばらしい存在だと思った．(21歳・女)

＜子育てと社会政府企業等に関する意見＞
・子供を育てるのは女性にとって重要なことである．（もちろん男性にとってもだが）これは女性は家にいなければいけないという旧観念ではない．女性が社会進出すること奨励すべし．しかも同時に女性が家にいることも奨励すべきではないのか．軽薄なフェミニズム連中がいうべきことは女性を男性と全く平等に扱え給与も権利も平等にせよという意見である．これに対して真のフェミニズムがあるとすればそれは女性と男性の特徴（差異）をしっかり認識しそれに見合った女性の社会進出を考案していく運動であるといえよう．女性が家庭にいる(21歳・男)
・もっと子供を育てる上で保障をしていき子供を育てる上で偏見や弊害をなくしていってほしいと思います．(20歳・男)
・育児に関する制度が充実すればよいとは思うがその分女性は会社に対して人一倍働かないと(かつ評価されないと)まだまだ認められない現状だと思う．(20歳・女)
・育児に対してさらに社会が真剣になるといいと思う(19歳・男)
・育児休業など最近制度は少しととのえられてきたのですが実際にはそれだけ長期間ブランクがあると復帰しても仕事においつけないから子供が作れないという話を女性の研究者の方がおっしゃっていました．せっかく情報のやり

とりが容易な世の中になったのだから休業中のケアなどもっと広がっていけばいいと思っています．(23歳・女)
・育児休業使うとやっぱり嫌がらせがあるんですね．知らなかった．(21歳・女)
・企業の育児に対する姿勢をあきらかにしてほしい．(22歳・男)
・現在家族社会学のゼミに所属していることもあり夫婦そろって子供を育てるような家族を多く見てきました．やはり現在の社会の仕組みだと男性が会社を休職して育児をすることはその後のキャリアを考えると不利にはたらくことが多くたとえそのような休職の制度があったとしても活用できないのが現実だと思います．これは政府などがいくらいっても無駄なことだと思います．これは就労時間を守り残業を減らすことをいくら政府が言っても企業側が聞かないことからも明白です．まずは男性が育児することが普通である社会を作ることが制度を作ることよりも先決すべきことだと思われました．(22歳・男)
・現代において少子化が進行していき子供が行きにくい環境にあると思った．別の言い方をすれば子供を産みにくい環境にあると思う．例えば遊び場所が減少したり放課後家に帰っても相手をしてくれる人がいない．あるいは小児科が減少していたり　と子供をないがしろにするように物事が進んでいると思う．(21歳・男)
・高齢化社会といわれる現代において子孫を残すことは重要となるだろう．しかしその一方では人口過多という問題もある．これらをうまく考慮したうえでの政策を期待する．(20歳・女)
・今就職活動中です．男女ともに働きやすい会社を探すのにとても苦労しています．なので今回のような調査をこれからの日本働く人子どもたちのために是非役に立てていただきたいと思います．女も男も仕事と育児どちらも当たり前のように両立できる世の中になって欲しいと思います．そしてこれから生まれてくる子どもたちの夢がつぶされないような環境をつくって生きたい．(21歳・女)
・今の社会では女性が安心して子どもを持つことなどできるわけがない．(19歳・女)
・仕事と子育てを両立させるための支援があれば積極的に産んで育てると思う．(22歳・女)
・子どもの出産・育児がしやすくなる環境が整って少子化の問題が解決することを願う．(20歳・男)
・子どもを女性が持ちやすい環境をつくるのに役立てて欲しいです．(19歳・女)
・子供がかわいそうだからと仕事をやめる女性をたくさん見たし仕事を続けると子供が1人で留守番をすることになったりと子供と仕事が現在の日本のシ

ステムでは両立が非常に難しいと思う．仕事を続けながら子育てをできるならば女性は家庭にしばられることも少なくなるし女性の経済的自立は離婚・死別時するようなことがあってもやっていけるから自分のために仕事したいという感じはいなめない．(21歳・女)

・事前よりは状況は変わっているとはいえいまだに女性が仕事と子育ての両立をするのが難しい世の中であると思う．それだけの基盤がないということももちろんあるしまだまだ男性社会であり男性の家事や育児に対する理解がもっともっと深まっていかなくてはならない．女性が社会進出していくこと自体とても喜ばしいことであるが合計特殊出生率が低下しているのもまた事実である．少子化に歯止めをかけようと思ってもなかなか難しいだろう．子どもを産まなくなっている理由の一つとして経済的な問題がある．特に教育費に多大な費用がかかるとい(23歳・女)

・時代の変化に伴い女性の社会進出など現実生活レベルで家庭のあり方が変化してきているともいます．同時に治安の悪化や青年少年犯罪の増加も見られます．今昔のように女性が家庭にいて子供の世話をする．というだけでは犯罪や非行を減らすことにはつながらないと思います．現代社会に見合った家庭のあり方を考え社会がそれをサポートしそして本人が家族とよくコミュニケーションをとって家庭なりの幸せを求めていくことが大切ではないかと思います．(21歳・女)

・社会が変わらないと少子化問題は解決しないと思う(20歳・男)

・社会的個人的にも子どもとその親（とくに女性）を支援するしくみが重用だと思う．(20歳・男)

・就職のためOB訪問などを行っていると必ず「女性の就職は厳しい．女性差別は当たり前」だと言われます．伝統のある会社経営陣の若返り化のない会社では法の整備が進んでも女性の雇用状況は依然厳しいままな気がします．出産・育児の重要性を安易に叫ぶのは女性をまた内に閉じ込める危険があると思うので具体的なプランまたは成功例などを示し徹底的な取り組みを望みます．(21歳・女)

・女性の就職が難しくなってきていますが女性スタッフを必要としている会社でないと育児に関する制度も整えるのが難しいんではないかと思いました．こんなに会社にとってマイナスな制度（勤務時間を減らすetc…）を作るなら男性を雇ったほうがずいぶんらくだもんなーと思いました．(19歳・女)

・少子化が叫ばれているがそれはみな自己中だからだと思う．将来のことを考えてフリーターなどせず働き子どもを作ってほしい．今の出生率では人口が減る一方だ．2%程度に回復してほしい．(20歳・男)

・色々な制度が整いつつあるがやはり子育てで苦労をするのは女性だと思う．

いくら制度があってもこの認識が変わらなければ子育てを諦める女性は多いと思う．(21歳・女)

・親(大人)が金を求める社会において子どもの真の幸福は得られないと思う．子どもの真の幸福は大人が金を求めてやっきになって働いて夫婦げんかなどをおこす社会ではなく大人に子供と接する時間を与えてゆとりを与える社会だと思う．現実は難しいが．(21歳・男)

・親がお金を出して支援してくれているうちはまだ"子ども"だと思う．その意味で私も子供である．変な言い方だが子供である以上親の言う事は聞くべきかもしれない．(20歳・男)

・親が安心して子供を育てられる社会になってほしい．(19歳・男)

・人が子供を欲しいと思うことは生き物として自然のことであるが先進国ではそうではなくなってきている．つまりわれわれの社会は自然から離れてきているのである．少しでも社会を自然に近づけるような努力を私も含め大人たちがやっていかなければならないと思う．(23歳・男)

・正しい育児を行うためにも育児休業制度はさらに充実させていく必要があると思います．(23歳・男)

・日本も子育てを楽しくできる環境が整えばよいなと本当に思います．(22歳・女)

・日本社会はもっと育児休業を取れるようになればいい．(19歳・男)

・本当は3人か4人くらい子どもが欲しくても現代の社会状況(学費の高さなど)によって実際産める子供の数は少なくなっていると思う．子どもが好き子育てが好きと思い子供がたくさん欲しい人や家庭には支援がもっとあってもいいのではないか?だが税金の増額も家計を圧迫する．(23歳・女)

＜その他の意見＞

・こうしている間にも世界中で多くの子どもが餓死しているのですよね．(22歳・男)

・この調査を答えてみて“自分の子供”というビジョンをみたが“できちゃった婚”だけはしたくないと思った．(20歳・女)

・これを機会に子どもと接すること時間を増やして子どもについてより考えてみようと思う．(34歳・男)

・もっと教育法を考えるべきだ(19歳・男)

・結婚についてちょっと考えさせられた．(20歳・男)

・現代の若者がどのくらい子どもをほしがっているのか知りたいです．(22歳・女)

・子どもに関する育児休暇について本調査で知ることができた．(19歳・男)

・子どものことに関して少し考えさせられた．(22歳・男)
・子どもを作るということは結局ミトコンドリアの種の存続という意志に支配されている部分が大きいと思う．だから人間はみんな子どもを安易にほしがってしまうんだと思う．子どもを作るんだったら親は責任もってきちんと育てなければならないもんだとおもう．(23歳・男)
・子どもを産んで子育てをしていくにはその前に具体的な経済的精神的負担などを考えた上でないといけないと思います．そういった面に関しての項目が具体的にいくつもあったので「こういうことも考えなきゃいけない」と気づけたのでこの調査は自分の役にもたったので良かったです．(19歳・女)
・子どもを持ち育てることは地球にとって大切なことだと思う．ただ自分には結婚の意志がないので子どもは持てない．幸せな家庭を持つことができた人たちにはそれぞれの宝物をフルパワーで育てて欲しい．(19歳・男)
・子どもを持つか否かということは自分の数年後に迫った命題であるので興味を持って回答しました．(23歳・男)
・子どもを生むのに必要な考えの項目が整理された気がします．(21歳・女)
・子育てについて考える機会がもてて良かったと思います．(19歳・男)
・私の研究フィールドは保育園での地域子育て支援なので子どもと触れ合ったりお母さんの話を聞いたりします．色々な政策が実現されることを望みますし若い人達が子どものいる生活を知るような機会が増えると良いなぁ…と思っています．(21歳・女)
・私の卒論は育児ストレスの研究をしています．子どもの問題行動→母親の認知→ストレス反応という過程が明らかになりました．是非とも結果を教えてほしいです．(24歳・女)
・自分の心の奥に眠っているあいまいな考えを見直すことができてよかったです．(19歳・女)
・正直まだ結婚もしていないのでわからない．(22歳・男)
・知らなかった子育ての制度について知ることができてよかった．(20歳・女)
・不妊症に悩む方や子どもをいらないと思う夫婦がいる．子供がいないと幸せになれないとか言い切るのはどうなのかと思う．大事なのは夫婦が子どもをほしいと思ったときに子どもを育てて生きやすい子育てをするという人生を選択しやすい社会を作ることだと思う．子どもを産み育てることは親の自由だが子どもの人生その子が将来何をしたいのかは子どもの選択するところだ．初めから扶養を考えて子どもを育てることは少しゆがんでいる気がする．(19歳・女)
・普段あまり子供を持つことについて考える機会がないので自分の将来について考えさせられました．自分の将来について考えるよいきっかけになりまし

た．(22歳・男)
・友人が子どもを産んだので身近な問題として考えられた(21歳・男)
・このアンケートをやって　自分は子育てに関して女性がやるものとの考え方をもっていることがわかった．(20歳・男)
・この調査をして子育てと仕事が両立できるか不安になりました．(23歳・女)

3－3．インタビュー

本年度は，20代から30代前半の男性5名（30代　既婚　子どもあり　2名／30代　既婚　子どもなし　　1名／30代　未婚　子どもなし　1名／20代　未婚　子どもなし　1名）に対して，各1時間から1時間半の，半構造化面接方式のインタビューを行った．現在インタビューデータのプロトコルおこしの作業を行っており，データの分析は平成16年度に行う予定である．このため，ここではインタビューを行った際の感想や気になった点について報告する．

まず，30代の男性では，既婚／未婚ともに，子どもを持つことに対して，ある程度の現実的な考え方を示していた．たとえば，子どもの数については，それぞれに抱えている事情のためもあるが，一人いれば満足しており，多くても二人いればいいと考えていた．20歳前後の学生に対して行ったアンケート調査の結果では，子どもは2人や3人ほしいと考えている人が多かったことから考えると，子どもをほしいと考える希望は，何らかの要因によって，低下しているのではないかといえる．

また，30代の男性の子育てへの参加意欲については，状況が許せば参加したいが，状況を積極的に変えるような働きかけについては，否定的であった．育児休業制度についても，積極的にとることは考えていなかった．この点についても，20歳前後の学生へのアンケート調査の結果と比べて，大きな差があることがわかった．

このほか，子どもの数を制限する理由として，経済的・物理的な負担が挙げられ，特に子どもに十分な教育をするためには，子どもの数が限られると考えているようであった．中には，大学教育まで子どもに受けさせることが負担だと考えているのではなく，それ以前の小学校からの義務教育期間で，質の高い教育や環境を考えると教育費がかかるため，と考えている人もいた．

また20代男性の場合，結婚及び就業といった事柄に関して未経験であり，将来にかけての人生のビジョンが定まっていない中での，回答であり，想像の域を出ていない部分も多々ある．とはいえ，結婚や子育てについての意欲は非常に強かった．また家事能力については相当自信を持っており且つ実際に行っている．その家事能力を生かし，子育てにも参加したいという意見であった．

本年度のインタビュー調査は，アンケート本調査に向けての調査項目整備のための，実態調査の目的と，次年度に計画しているフォーカス・グループインタビューの準備の目的があった．今後，この目的に向けての詳細な分析が必要である．